

授 業 科 目 の 概 要			
(教育実践研究科教職実践専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	授業づくりの内容と方法 Designing Lesson Plans (1)	授業力の要素である教材把握力、子ども把握力、指導技術力の観点から望ましい授業像を理解し、具体的な授業づくりの方法を理解する。理解と定着のための教材研究と実際的方法、授業構想と設計、授業シミュレーションを扱う。特に、一連の流れを重視するとともに、授業シミュレーションの具体的方法を理解し、それを体得させるために必ず演習を課する。()志水は理論的な立場から、(11)中妻は実践的な立場から、附属教官は附属での実践と結びつけるようにする。	志水 廣 中妻雅彦
共通科目	総合学習の研究 Study in Integrated Subjects	(7)船尾のもとで院生たちは総合学習の理念と歴史を学び、さまざまな観点で実践された優れた実践事例を検証する際には(12)蜂須賀の指導を受ける。さらに(17)都築の指導と助言を受けながら、附属学校および地域の授業公開(研究発表)に参加し、独自の総合学習を立案し、実践を指導し、検証する全般的な力を育成する。とはいえ3名の教員は常に連絡をとりあい、連携して授業を運営する。	船尾日出志 蜂須賀渉 都築孝明
共通科目	実践的授業研究 Practical Instruction Study (1)	教科全体に通ずる授業研究と評価方法、授業改善の観点などについて、学習指導要領を踏まえて理解し、実践的な指導案作成や討論などによって、求められている授業力の基礎・基本を体得する。到達目標と評価規準・基準を明確にした指導案の作成と模擬授業、事例分析などのほか、学習者を生かす授業と評価などについても検討する。()佐藤は理論的な面と国語力育成の観点から、(12)蜂須賀は算数・数学と実践的な面を、主に担当する。	佐藤洋一 蜂須賀渉
共通科目	カリキュラムの開発と評価 Curriculum Development and Assessment(1)	学校において、実際にカリキュラム開発・評価が実践できるように、カリキュラムの開発と評価に関する基礎的概念、開発・評価の方法と視点、課題について検討する。事例を取り上げ、各学校種の教育課程の構造と特徴、教科カリキュラムの構成原理、学校独自の教育課程の構造について、論争を踏まえつつ考察する。事例検討のなかで、社会的ニーズ、文化、子どもの発達と問題関心、現代的課題、学習論をどのように反映させるかや、カリキュラム開発の体制についても検討する。全般的な部分は(8)吉田が担当し、教育課程の事例検討は(11)中妻・(18)山田が担当する。教科カリキュラムの検討は、教科により3人で分担して指導に当たる。	吉田淳 山田綾 中妻雅彦
共通科目	学級経営ワークショップ Workshop for classroom management	二人の教員(9)藤井、(10)志賀)が全授業をTTで担当。1年間の学級経営を行っていく上で必要な、児童・生徒理解の方法や、学級のダイナミズムの掴み方・学級の動かし方などの視点や、視点相互の関連、および、それらを関連させながら展開させていく筋道について、特別活動等を軸にしながら考察し、具体的な指導技術や、指導のツールを検討しながら実践的指導力を修得する。座学に陥らないように、授業外での実践参観を義務づけて、授業と実践を関連づけながら授業をすすめる。	藤井啓之 志賀廣夫
共通科目	問題行動の理解と生徒指導・相談活動の進め方 Methodology of understanding, guidance and counsel for students in trouble.	問題行動や生徒指導に関する学習と、フィールドワーク的手法の導入を行う。授業の目標は、問題行動を児童生徒の全人的な発達段階のなかに位置づけ、対応するための手法を身につけることである。発達を総合的に理解するために、家庭や地域、マスメディアが伝える子ども・若者文化など、児童生徒の環境について考察を深める((4)川北)。また問題行動には必ず理由があるという姿勢で、その原因と背景についての理解を深める((16)木村)。最後に、問題行動の解決のために、学内連携とフィールドワークの手法を導入する((4)川北、(16)木村)。	川北稔 木村隆夫

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	青少年のキャリア発達と進路指導・キャリア教育推進 Career development and Career Guidance, Career Education	キャリア教育の推進が求められるようになった社会的な背景、労働力状態の変化などについての理解を深める中で、青少年の進路選択と適応の状況、キャリア発達の実態を知り、その健全なキャリア発達を助長し、キャリア形成を支援するため、青少年を取り巻く社会の状況や労働状態の変化、新規卒業者の進路選択と卒業後の適応をめぐる状況や課題、青少年のキャリア発達、職業的発達の意義やプロセス、主体的な進路選択の能力や進路情報の理解と活用、学校における進路指導の意義や具体的な活動、現状等の理解を深めながら、小学校段階から、「生き方の指導」としての進路指導、キャリア教育の推進を図ろうとする意欲や態度などを身に付けることを目標とする。授業は全体を通して、T・Tで行うが、主として()神谷が意義・計画について、()工藤が学校における実際の運用の在り方などについて指導する。	神谷孝男 工藤栄一
共通科目	心の教育と道德教育の推進 Moral and Mind education	二人の教員(9)藤井、(10)志賀)が全授業をTTで担当。子どもの心の発達や道德的発達を促進する教員の指導のあり方について、道德教育の教育目標論や教育内容論をふまえ、さらに全教育活動的の領域(道德の時間、各教科、特別活動、総合的な学習の時間)の道德教育上の教育力を視野に入れ、それらとの有機的連携を念頭に置いて、道德の時間の指導方法について様々な潮流の方法を取り上げて考察し、各々の効果や指導上の留意点などを確認し、実践上必要な知識と技能を獲得する。	藤井啓之 志賀廣夫
共通科目	自律する学校づくり School Autonomy	本授業は学校組織・経営に関して「学校づくり履修モデル」の学生にとっては今後の学習へのオリエンテーションとして位置づけ、他学生にとってはその概要を学ぶものとして位置づけ、学校組織、法的・社会的責任について認識を深め、管理、運営・経営についての基礎を学ぶことを目的とする。さらに、事例研究を通して、現代的なさまざまな課題に応えられる学校における教育課程の編成、校務分掌、研修のあり方を考える。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(14)恒川、(15)山田が実態をふまえた解説を行う。ワークショップ、ロール・プレーイング、2年次学生の課題研究についてのプレゼンテーションを取り入れ、展開する。評価は、適宜実施する基礎事項に関するテストと事例研究レポートによる。	添田久美子 恒川武久 山田久義
共通科目	協働する学校づくり Developing schools through cooperation with parents and community	本授業は学校づくりに関して、「学校づくり履修モデル」の学生にとっては今後の学習へのオリエンテーションとして位置づけ、他学生にとってはその概要を学ぶものとして位置づけ、事例研究を通して現代学校の抱える課題、学校・教師に求められている課題への理解を深め、そうした課題に応える学校づくりの手法の基礎を習得することを目的とする。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(14)恒川、(15)山田が実態をふまえた解説を行う。ワークショップ、ロール・プレーイング、2年次学生の課題研究についてのプレゼンテーションを取り入れ、展開する。評価は、適宜実施する基礎事項に関するテストと事例研究レポートによる。	添田久美子 恒川武久 山田久義
専門科目	授業モデルづくり専門履修目 教材の深化と発展 Research and Development of Teaching Materials	授業で用いる教材の意義と機能を知ると共に、効果的かつ効率的な教材の利用について理解し、それらを指導計画、学習過程に反映できることをめざす。すなわち、教材の役割を把握して、教材をどのように学ぶか、どのような教材がよいか、教材をどのように学ばせるかを、事例を通して検討する。そして、実際の授業で用いる教材の設計と作成を行い、その内容と方法を評価する。(6)宮川は理論的立場から、(11)中妻・(17)都築は実践的立場から追究し、協力して担当する。	宮川秀俊 中妻雅彦 都築孝明
専門科目	授業モデルづくり専門履修目 指導技術力の開発(学びを支える授業力) Development of the instruction skills to support learning	(7)船尾の指導のもとで院生たちはプロ教師が有するべき資質について確認し、本物のプロと称されるべき教師たちの授業力について徹底的に学ぶ。それにたいして(11)中妻は長年にわたる小学校での実務経験にもとづいて、院生たち一人ひとりの特徴と課題を洞察することで、それぞれの個性を生かした授業力の開発を支援する。そのような常時二方向からの取り組みによってこそ真に学びを支える授業力の飛躍的発展が可能となる。	中妻雅彦 船尾日出志

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 授業モデル 専門履修	教授メディアの研究 Study on Instructional Media	授業で用いる教授メディアの種類や機能を知ると共に、教授メディアの効果的かつ効率的な利用について理解し、それらの授業での生かし方を探求する。すなわち、教授メディアの概念を把握して、伝統的メディアとニューメディア、メディアミックスの利用を、生徒使用の立場からと教師使用の立場から、事例を通して検討する。そして、実際の授業で用いる教授メディアの設計と作成を行い、その内容と方法を評価する。(6)宮川は理論的立場から、(12)蜂須賀は実践的立場から担当していく。	宮川秀俊 蜂須賀渉
専門科目 授業モデル 専門履修	カリキュラムの開発と評価 Curriculum Development and Assessment(II)	同科目の発展として、実際にグループまたは個人のプロジェクトとして、カリキュラムの開発を実施し、全体で検討・改善する。プロジェクトと成果の検討を通して、カリキュラム開発・評価の方法と視点について、実践的に再検討することを目的とする。特に、先行事例の検討により改善課題を明確にして取り組む。実践経験による地域や子どもの実態把握から検討し合ったり、実際に現職教員の学校において参与観察や授業を実施して案を検討するなど、具体的実践的に取り組む。また、評価においては、コンセプトマップ(概念地図)の作成などの方法の検討などを具体的に行うなど、教育実践を組み換えるためのカリキュラム開発を検討する。カリキュラム開発の理論と方法については(8)吉田が中心に担当し、事例の収集や具体的検討においては(12)蜂須賀・(18)山田が中心に担当する。	吉田淳 山田綾 都築孝明 蜂須賀渉
専門科目 学級モデル 専門履修	教育的コミュニケーション演習 Seminar on educational communication	二人の教員(9)藤井、(10)志賀)が全授業をTTで担当。教育の様々な場面で要求されるコミュニケーション力についての理解と実践的力量を獲得する。教員・児童生徒間、児童生徒相互、教員・保護者間それぞれのコミュニケーションの特質や、それぞれの効果的なコミュニケーションのあり方、コミュニケーション・ツールの活用方法などについて理解するとともに、ワークショップなどのアクティビティを通して、実践的な技能を習得する。	藤井啓之 志賀廣夫
専門科目 学級モデル 専門履修	問題行動対応論 Theory of coping with Misbehavior of Students	いじめや不登校の援助の実践や、非行や暴力の克服のための実践を学ぶ。共通科目を踏まえて、子どもの対人関係上の問題や、子どもの非行や暴力の背景について、より深く理解する。対人関係の援助や非行克服のための援助実践の手法を複眼的に学ぶ。また、援助実践を専門とするゲスト講師を招聘し、専門機関のフィールドワークを行う。援助実践の学問的背景からの課題提起を(4)川北が行い、具体的フィールドとの架橋を(16)木村が担当する。	川北稔 木村隆夫
専門科目 学級モデル 専門履修	学級経営実践演習 Seminar on classroom management practice	二人の教員(9)藤井、(10)志賀)が全授業をTTで担当。共通科目の「学級経営ワークショップ」を土台として、基本的に、学級経営の年度下半期の活動に焦点を当てながら、学級経営について実践的理論的に理解する。とりわけ、受講している現職教員や連携協力校の学級経営実践を素材として、リアルタイムで学級経営上の問題を把握し、その改善策を構想し、場合によっては実践していくことで、有効な対応策のあり方を理解していくとともに、その対応策の土台となっている理論について把握する。	藤井啓之 志賀廣夫
専門科目 学級モデル 専門履修	進路指導の計画と組織的運営 Career Guidance Plan and Systematic management	進路指導、キャリア教育を「学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的に」行うために必要な事項についての基本的な理解を深めて、実践しようとする意欲や態度をはぐくむため、具体的には、進路指導、キャリア教育の目標を達成するために必要な全体計画と個別の計画の種類と具体的な内容の理解を深める。進路指導、キャリア教育を組織的に運営するために必要な校務分掌上の組織形態や協力的な指導体制を確立するための具体的方法などを理解し、実践を深める。家庭や地域社会、上級学校、公共職業安定所その他の関係機関との連携協力を図ることの必要性とその在り方について理解を深めることを目標とする。授業は全体を通してT・Tで行うが、主として()神谷が意義・計画について、()佐野が学校における実際の運用の在り方などについて指導する。	神谷孝男 佐野和久

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	学校モデルづくり専門履修 学校活性化に向けた組織改善実践演習 Restructuring school for activation	拡大されつつある学校の裁量権を生かして、「特色ある学校づくり」、「開かれた学校づくり」、「協働する学校づくり」といった取組みにおいて自校の独自性を発揮することができる「学校組織を育てる」という意識を向上させ、学校の組織特性を理解し、学校に適した組織マネジメントとはいかなるものであるのか、改善策の設計方法、検証システムのデザイン方法の基礎を修得することを目的とする。授業の中で、現職教員が自校をモデルに実行策を実際に計画するという、非常に実践性の高い授業である。また、実効策を現任校で提案し、それに対する意見を受け取り、改善案を立て、プレゼンテーションを行うことにより、コミュニケーション力、コーディネーター力を高める。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(3)添田、(14)恒川、(15)山田が実態をふまえて実行策の作成指導を行う。作成した実行策、プレゼンによって評価を行う。	添田久美子 恒川武久 山田久義
専門科目	学校モデルづくり専門履修 教職員支援・研修体制開発実践演習 Developing support system for teachers' study and self-improvement	各ライフステージにおいてどのような資質能力が求められているのかを理解し、それらの資質能力を高めるために、ミドル・リーダーとしてどのようにサポートするべきであるのかを修得し、さらに学校全体としてどのような体制づくりが必要であるのかを自校をモデルとして考える。また、近年増加している精神性疾患への理解を深め、心身ともに健康な職場づくりに取り組む基本的知識を獲得することを目的とする。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(3)添田、(15)山田が実態をふまえて、実効策の作成指導を行う。さらにメンタルヘルスに関する4回については(19)岡田により専門性の高い授業を担保している。作成した実行策、プレゼンによって評価を行う。	添田久美子 山田久義 岡田暁宣
専門科目	学校モデルづくり専門履修 地域に開かれた学校づくり実践演習 Opening school to community	「協働する学校づくり」及び「教育施策研究」で学んだ基礎知識・技法をもとに、推進されている教育施策などにおける課題を踏まえ、自校の校区、地域を分析研究し、地域との双方向の関係を構築するために自校が取り組む計画を立案する。なお、本授業で立案された計画は、「課題実践実習」によって実際に自校で実施・検証される計画としての選択肢のひとつとなるものであり、実施に耐えうる計画立案が求められる。授業の中で、現職教員が自校をモデルに実行策を実際に計画するという、非常に実践性の高い授業である。プレゼンテーションを行うことにより、コミュニケーション力、メンターとしての力量を高める。また、本授業で立案された計画は、「課題実践実習」によって実際に自校で実施・検証される計画としての選択肢のひとつとなる。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(14)恒川と共に実態をふまえて、実行策の作成指導を行う。作成した実行策、プレゼンによって評価を行う。	添田久美子 恒川武久
専門科目	学校モデルづくり専門履修 保護者との協働体制づくり実践演習 Developing schools through cooperation with parents	「協働する学校づくり」及び「教育施策研究」で学んだ基礎知識・技法をもとに、自校の児童・生徒の実態、保護者の実態、地域の実態を分析研究し、推進されている教育施策などにおける課題を勘案し、保護者と双方向のコミュニケーション関係を構築する計画を立案することを目的とする。なお、本授業で立案された計画は、「課題実践実習」によって実際に自校で実施・検証される計画としての選択肢のひとつとなるものであり、実施に耐えうる計画立案が求められる。授業の中で、現職教員が自校をモデルに実行策を実際に計画するという、非常に実践性の高い授業である。プレゼンテーションを行うことにより、コミュニケーション力、メンターとしての力量を高める。また、本授業で立案された計画は、「課題実践実習」によって実際に自校で実施・検証される計画としての選択肢のひとつとなる。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(15)山田と共に実態をふまえて実態をふまえて、実行策の作成指導を行う。作成した実行策、プレゼンによって評価を行う。	添田久美子 山田久義

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 モデルづくり専門履修科目	特色ある学校づくり実践演習 Developing distinguished schools	これまでのすべての授業の総まとめとして位置づけ、自校についての分析をもとに、自校の存在意義(ミッション)をどこに求めるのかを明らかにし、そのミッション達成に向けて教育課程、教員組織、保護者、地域との協働関係をどのように改善・発展させるのか、また教育委員会の支援をどのように取り付けるのかといった事柄について立案する。なお、本授業で立案された計画は、「課題実践実習」によって実際に自校で実施・検証される計画としての選択肢のひとつとなるものであり、実施に耐えうる計画立案が求められる。授業の中で、現職教員が自校をモデルに実行策を実際に計画するという、非常に実践性の高い授業である。プレゼンテーションを行うことにより、コミュニケーション力、メンターとしての力量を高める。 また、本授業で立案された計画は、「課題実践実習」によって実際に自校で実施・検証される計画としての選択肢のひとつとなる。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(3)添田、(14)恒川、(15)山田と共に実態をふまて、実行策の作成指導を行う。作成した実行策、プレゼンによって評価を行う。	添田久美子 恒川武久 山田久義
専門選択必修科目	授業づくりの内容と方法 Designing Lesson Plans (II)	教科の特性に応じて教材開発力、授業の展開の構成員力、具体的な指導技術力について理解する。教材開発、授業構成、発問・板書などの指導技術について模擬授業を通して理論と実際的な方法を習得する。具体的には次の5点である。教材開発、机間指導、教師と子どもとのコミュニケーション、児童・生徒の評価、授業の評価、個に応じた指導。()志水は理論的な立場から、(12)蜂須賀は実践的な立場から担当していく。	志水 廣 蜂須賀渉
専門選択必修科目	実践的授業研究 Practical Instruction Study (II)	実践的授業研究の基礎・基本を踏まえて、提案性のある授業研究と評価方法について学ぶとともに、学びの系統性・学びの質的評価、一斉学習と個に応じた指導の開発など、応用的発展的な授業研究・評価について学ぶ。模擬授業と考察・実践事例の分析・教材開発と活用・学びの系統性からの指導計画の構想などについて、実践的に検討する。()佐藤は学びの系統性・質的評価、国語力の面から、(11)中妻は指導計画・単元構想・学習者を生かす指導システムなどを、主に担当する。	佐藤洋一 中妻雅彦
専門選択必修科目	学級経営技術開発演習 Seminar on developing of classroom management skills	二人の教員(9)藤井、(10)志賀)が全授業をTTで担当。学級経営を行っていく上で必要とされるさまざまな技術について、既存の指導技術書等をベースとしながら、場面別、対象別、レベル別等々、さまざまな側面から指導技術を整理分類して体系化するとともに、それらを批判的に考察しながら、理論的に根拠づけられ、応用可能な自らの技術を開発し、受講者間で実践して有効性を検証し、教育技術体系として随時公開・更新していく。	藤井啓之 志賀廣夫
専門選択必修科目	道徳教育教材開発演習 Seminar on developing the moral education materials	二人の教員(9)藤井、(10)志賀)が全授業をTTで担当。学年や学級や地域等の実情に即しつつ、子どもたちに育てたい道徳的な力を構造的にとらえ、その目標像に至るために適切な「具体的な目標」を設定することができること、さらにそれにふさわしい内容を備えた教材を選択したり、収集したり、自主的に制作できることが目標となる。また、自主教材を作成して、道徳授業の構想を立て、指導案をつくり、目標にふさわしい教材であるかどうか検証する。	藤井啓之 志賀廣夫
専門選択必修科目	問題行動解決支援演習(いじめ・不登校等) Seminar on supporting the students in trouble 1 (Bullying, School refusal)	「問題行動対応論」をうけて、問題行動の複眼的理解・対応を、現任校や実習校で実践するための事例研究を行う。多角的な事例を取り上げ、必要な援助実践や援助ネットワークについて紹介しながら、自ら事例会議を行うための力量を育成する。演習では、子どもの対人関係上の問題(いじめ、不登校、発達障害)について扱う。扱う事例は子どもの受ける被害、子どもと家庭的背景、子どもの非行、非行の克服実践である。援助実践の学問的背景からの課題提起を(4)川北が行い、具体的フィールドとの架橋を(16)木村が担当する。	川北稔 木村隆夫

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 専門選択必修科目	問題行動解決支援演習 (非行・暴力等) Seminar on supporting the students in trouble 2(Juvenile, Violence)	「問題行動対応論」をうけて、問題行動の複眼的理解・対応を、現任校や実習校で実践するための事例研究を行う。多角的な事例を取り上げ、必要な援助実践や援助ネットワークについて紹介しながら、自ら事例会議を行うための力量を育成する。演習では、子どもの受ける被害、子どもと家庭の背景、子どもの非行、非行の克服実践について扱う。援助実践の学問的背景からの課題提起を(4)川北が行い、具体的フィールドとの架橋を(16)木村が担当する。	川北稔 木村隆夫
専門科目 専門選択必修科目	進路指導・キャリア教育の実践 Career Guidance, Career Education Practice	学級活動における「将来の生き方と進路」に関する指導や総合的な学習の時間における「現代社会と人間の生き方」、「自己の個性の理解と進路情報」の指導資料の収集方法と活用についての理解を深め、啓発的経験を得させる活動の種類とその実施についての理解を深める。進路指導、キャリア教育に必要な個人資料の種類と内容、個人資料の収集方法と整理・保管、活用の仕方 主体的な進路指導や職業生活への適応に必要な進路情報・情報資料の種類と内容、進路情報・情報資料の収集方法と整備、活用の仕方 学校行事や総合的な学習の時間におけるキャリア体験、啓発的経験の種類・内容と事前・事後の指導の実施について具体的に理解することを目標とする。 授業は全体を通して、T・Tで行うが、主として()神谷が意義・計画について、()工藤が学校における実際の運用の在り方などについて指導する。	神谷孝男 工藤栄一
専門科目 専門選択必修科目	進路指導・キャリア教育の実践 Career Guidance, Career Education Practice	学校における進路指導、キャリア教育は、学級活動における「将来の生き方と進路」に関する指導と進路相談を中心に、学校の教育活動全体を通じて、「計画的、組織的」に行うことを基本原則としており、この授業においては、進路指導、進路相談に必要な実践的指導力、技術を身に付けることをねらいとし、具体的には、学級活動における「将来の生き方と進路」に関する指導の方法と技術を身に付け、実践力を高めること。進路相談に必要な知識と技術を身に付けること。各教科、道徳、総合的な学習の時間におけるキャリア教育・ガイダンスの内容と実践的な指導力を身に付けること等を目標にする。 授業は全体を通して、T・Tで行うが、主として()神谷が意義・計画について、()佐野が学校における実際の運用の在り方などについて指導する。	神谷孝男 佐野和久
専門科目 専門選択必修科目	教育施策研究 Contemporary policies of Education	教育施策の動向を捉え、各施策の目的・内容に正確に理解する。また国、県、市町村それぞれのレベルにおける施策の関係性を考察し、そのなかで、今後取り組む「学校づくり」において、自校ではそうした施策をどのように導入・展開するのか、独自性、自律性をどのように図るのかをデザインする基礎を習得することを目的とする。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(15)山田が実態をふまえた解説を行う。県、市町村における先進的な取り組みについては、教育委員会の担当者や学校教職員を招いて討論を行う。学生のほとんどが愛知県・名古屋市の現職教員であることから、愛知県、名古屋市、その他市町で推進されている教育施策を重点的に学ぶため、各教育委員会の担当者をゲストスピーカーとして招き、実際の運用などにも深く入って討論を行う。プレゼンテーション、授業への参加、レポートで評価を行う。	添田久美子 山田久義
専門科目 専門選択必修科目	学校の法的責任 Regal mind of school	学校運営、教職員、教育指導、生徒指導といった分野における現行法上の規定を確実に習得し、「法規に基づく学校運営」という観点から校内のシステムを検討、再構築することを目的とする。実際の学習においては、各テーマにおいて典型的な事例を取り上げ、ディベート、グループ討論、ロールプレイなどの形式を用いて争点の検証を行うことを通して、自校における事例、システムとの比較検討を行う。授業はT・Tで行い、主として(3)添田が基本的事項についての専門的知識などを指導し、(14)恒川と共に実態をふまえた解説を行う。各回のテーマについて、授業に先立って各自が関連法規、規則を学習していることを前提とし、授業の始めにその基礎知識についての確認を行う。 授業は、事例についてディベート、グループ討論、ロールプレイなどの形式を用いて、問題の深層について考察する。適宜実施する基礎事項に関するテスト、授業参加度、事例研究レポートによる。	添田久美子 恒川武久

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実習関連科目	課題実践計画の研究 Developing Plan on Special Topics	<p>「．．．研究」という名称であるが、学術研究が行われるわけではない。2年次の課題実践実習の準備が目標である。そのために教員は、受講生が前期のさまざまな授業で得た知見をもとにして、実習校（現任校）での各教科における授業作り、総合的な学習の時間の編成等にかかわる課題意識を明確にするように導き、課題克服のための適切な計画づくりを鼓舞する。</p> <p>授業づくり履修モデルで想定される課題は、「授業における教師と子どものコミュニケーション活動の活性化」、「子どもの学習動機付けと能動性の喚起」、「指導や支援と一体化した評価のあり方」等々である。</p> <p>学級づくり履修モデルで想定される課題は、「集団づくり」「子どもとのコミュニケーション活動の活性化」、「道徳意識の向上」、「キャリア理解の向上」等々である。</p> <p>個別指導を基本として共通の課題を持つ者でグループを編成して教員を配置し、適宜グループ討論を行い、最後にはコース全体で発表会を行う。</p>	志水廣 佐藤洋一 宮川秀俊 船尾日出志 吉田淳 中妻雅彦 蜂須賀渉 都築孝明 川北稔 神谷孝男 藤井啓之 志賀廣夫 中越敏文 木村隆夫
専門科目 実習関連科目	課題実践研究 Practical Study on Special Topics	<p>「．．．研究」という名称であるが、学術研究が行われるわけではない。</p> <p>授業づくり及び学級づくり履修モデルにあっては、受講生が1年次の「課題実践計画の研究」で作成した計画を「課題実践実習」において達成できるように、実習の経過や結果を分析し、計画の修正を行うための研究を進める。</p> <p>学校づくり履修モデルにあっては受講生が1年次の専門科目「学校活性化に向けた組織改善実践演習」、「教職員支援・研修体制開発実践演習」、「地域に開かれた学校づくり実践演習」、「保護者との協働体制づくり実践演習」、「特色のある学校づくり実践演習」において自らの学校について企画・立案した計画をもとに1つを選び、現任校において実行可能なものとしてプランニングし、実施検証することを通じて、学校運営・経営という視点から理論と実践を融合する能力を高め、学校改善、改革のリーダーとしての資質、力量の向上を図る。その達成に向け、実習の経過や結果から計画の修正のための研究を進める。</p> <p>個別指導を基本として共通の課題を持つ者でグループを編成して教員を配置し、適宜グループ討論を行い、最後にはコース全体で発表会を行う。</p>	志水廣 佐藤洋一 宮川秀俊 船尾日出志 吉田淳 中妻雅彦 蜂須賀渉 都築孝明 川北稔 神谷孝男 藤井啓之 志賀廣夫 中越敏文 木村隆夫 添田久美子 恒川武久 山田久義
専門科目 実習関連科目	課題実践研究 Practical Study on Special Topics	<p>「．．．研究」という名称であるが、学術研究が行われるわけではない。</p> <p>受講生がとりわけ前期の「課題実践実習」で検証した計画をさらに改善を重ねて、自校ないし他校の若手教員に指導できるように適切に鼓舞し、助言する。</p> <p>授業づくり履修モデル想定される課題は、「板書や発問の仕方」、「教材や教具の準備の仕方」、「子どもの意識の変容に寄り添う教育活動のあり方」、「指導や支援と一体化した評価のあり方」等々である。</p> <p>学級づくり履修モデルで想定される課題は、「円滑な学級経営」、「困難を抱えた学級の立て直し支援」、「学年、学校で支援する生徒指導」等々である。</p> <p>学校づくり履修モデルで想定される課題は、1年次の専門科目「学校活性化に向けた組織改善実践演習」、「教職員支援・研修体制開発実践演習」、「地域に開かれた学校づくり実践演習」、「保護者との協働体制づくり実践演習」、「特色のある学校づくり実践演習」において取り扱った、自らの学校における課題である。</p> <p>個別指導を基本として共通の課題を持つ者でグループを編成して教員を配置し、適宜グループ討論を行い、最後にはコース全体で発表会を行う。</p>	志水廣 佐藤洋一 宮川秀俊 船尾日出志 吉田淳 中妻雅彦 蜂須賀渉 都築孝明 川北稔 神谷孝男 藤井啓之 志賀廣夫 木村隆夫 添田久美子 恒川武久 山田久義
学校実習科目	特別課題実習（基礎） Teaching Practice for Hot Issue	<p>現在学校において最も重要な課題となっている事柄について、専門的知識の基礎を修得し、先進的な取り組みなどを行っている学校を定期的に訪問見学、授業参加することによって、課題への取り組みの方法、方策を理解する。</p> <p>指導方法 ア．担当の大学教員と学生が話し合いの上、実習計画を立て、その計画に合う連携協力校を選定する。 イ．連携担当教員を交えて、実習計画の実施準備を行う。 ウ．連携担当教員によるオリエンテーション実施。 エ．大学教員同行による授業参観を行う。</p>	佐藤洋一

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校実習科目	特別課題実習（応用） Teaching Practice for Hot Issue	<p>教職実践基礎領域所属学生にあつては、特別課題実習（基礎）における経験をもとに、引き続き先進的な取り組みなどを行っている学校を定期的に訪問見学、授業参加することによって、課題への理解を深化させ、自らの実践力を高めるとともに、学校全体としての今後の取り組みとして、授業実践、学級経営さらには学校運営という観点からも検討を行う。</p> <p>教職実践応用領域所属学生にあつては、現在学校において最も重要な課題となっている事柄について、これまでの指導経験をもとに、専門的知識を修得し、先進的な取り組みなどを行っている学校を定期的に訪問見学、授業参加することによって、課題への取り組みの方法、方策を理解し、自らの実践力をさらに高めるとともに、現任教での学校全体としての今後の取り組みとして、授業実践、学級経営さらには学校運営という観点からの検討を行う。</p> <p>指導方法 ア：担当の大学教員と学生が話し合いの上、実習計画を立て、その計画に合う連携協力校を選定する。 イ：連携担当教員を交えて、実習計画の実施準備を行う。 ウ：連携担当教員によるオリエンテーション実施。 エ：大学教員同行による授業参観を行う。 オ：大学教員、連携担当教員、その他教員参加による特別課題への取り組みの在り方についての意見交換会を実施する。</p>	佐藤洋一 添田久美子
学校実習科目	教師力向上実習 Teaching Practice for Aspiring Teachers	<p>新人が、現職教員の一日に密着し、あらゆる場面における教師のしごとを理解する。さらに、一定期間担任として責任をもって教育にあたることによって、授業以外の場面における教師としての力量についても向上させ、学校を支える一員としての心構えを育成し責任感を高める。当該実習では、専門的理論、技術を実際の学級経営、生徒指導のなかで自らが実践し、さまざまな経験を得ることで教師としての指導力を高める。</p> <p>指導方法 ア：担当の大学教員、現職指導員（メンター）、新人が話し合いの上、実習計画を立案する。 イ：現職指導員（メンター）が新人に対してオリエンテーションを実施する。担当大学教員がその成果について確認を行う。 ウ：大学教員が実習校への訪問指導を行う。 エ：実習校における研究会を開催する。</p>	神谷孝男 藤井啓之 川北稔 志賀廣夫 中越敏文 恒川武久 山田久義
学校実習科目	教師力向上実習 Teaching Practice for Aspiring Teachers	<p>新人が、現職教員の一日に密着し、校務分掌などの学校運営に参加し、教師の一員としての自覚を高め、教職に就く強い意欲と自信を育て、学校を支える一員としての心構えを育成し責任感を高める。当該実習においては、特に専門的理論、技術を実践のなかで有効に使い、教科指導における適切な授業設計、展開、分析、評価の力量を高め、さらに教材開発力、単元開発力の基礎を育成する。</p> <p>指導方法 ア：担当の大学教員、現職指導員（メンター）、新人が話し合いの上、実習計画を立案する。 イ：現職指導員（メンター）が新人に対してオリエンテーションを実施する。担当大学教員がその成果について確認を行う。 ウ：大学教員が実習校への訪問指導を行う。 エ：実習校における研究会を開催する。</p>	佐藤洋一 志水廣 吉田淳 船尾日出志 宮川秀俊 中妻雅彦 蜂須賀渉
学校実習科目	教師力向上実習 Teaching Practice for Aspiring Teachers	<p>新人の学校実習の最終として、これまでの実習校とは異なる学校環境で、学修の成果の確認と今後の自らの課題をひろく発見するための実習として位置づける。新人が現職教員の「メンター実習」とペアで行い、これまで学んだことを充分実践に生かしているのか、今後の課題は何かを現職教員との協働のなかで検討する。</p> <p>指導方法 ア：担当の大学教員、現職指導員（メンター）、新人が話し合いの上、実習計画を立案する。 イ：現職指導員（メンター）が新人に対してオリエンテーションを実施する。担当大学教員がその成果について確認を行う。 ウ：大学教員が実習校への訪問指導を行う。 エ：実習校における研究会を開催する。</p>	志水廣 佐藤洋一 中越敏文

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校実習科目	他校種実習 School Practice for Diverse Experiences	<p>これまでの教職経験とは異なる校種、地域の学校を定期的に訪問見学、授業参加することによって、学校教育全体の現状を把握し、自らの実践を相対化する。また、小学校と中学校の連続性のあり方を授業実践、学級経営さらには学校運営という観点からの検討を行う。</p> <p>指導方法 ア．担当の大学教員と学生が話し合いの上、実習計画を立て、その計画に合う連携協力校を選定する。 イ．連携担当教員を交えて、実習計画の実施準備を行う。 ウ．連携担当教員によるオリエンテーション実施。 エ．大学教員同行による授業参観を行う。 オ．大学教員、連携担当教員、その他教員参加による校種間連携の在り方についての意見交換会を実施する。</p>	恒川武久 山田久義
学校実習科目	メンター実習 Practice for Mentor	<p>メンター実習(現職)と新人の実習をペアリングし、現職が、新人を指導することを通して、現職と新人の協働的学習の場を創出し、同僚を支援する実践的な指導方法、コミュニケーション力、調整力を学ぶとともに、自らの指導を客観的に捉え省察する機会とする。</p> <p>指導方法 ア．担当の大学教員、現職(メンター)、新人(シャドウイング)が話し合いの上、実習計画を立案する。 イ．現職(メンター)が新人(シャドウイング)に対してオリエンテーションを実施する。担当大学教員がその成果について確認を行う。 ウ．大学教員が現職(メンター)、新人(シャドウイング)の実習校への訪問指導を行う。 エ．実習校における研究会を開催する。</p>	佐藤洋一 志水廣 川北稔 神谷孝男 宮川秀俊 船尾日出志 吉田淳 藤井啓之 志賀廣夫 中妻雅彦 蜂須賀渉 中越敏文 恒川武久 山田久義
学校実習科目	課題実践実習 Practice on Special Topics	<p>現職学生が自らの課題を設定し、教職大学院で学んだ理論をもとに、課題解決のためのプランニングを行い、学校現場において実施検証を行うとともに、自らの学びをとおして現任校の課題解決に取り組む。さらにこれを通じて真の理論と実践の融合を自らが行うことができる能力を育成する。</p> <p>ただし、「学校づくり履修モデル」にあつては、専門科目「地域に開かれた学校づくり実践演習」、「保護者との協働体制づくり実践演習」、「特色のある学校づくり実践演習」において自らの学校について企画・立案した計画をもとに1つを選び、現任校において実行可能なものとしてプランニングする。</p> <p>指導方法 ア．大学教員が現任校に出向き現職の課題探索を支援する。 イ．大学においてひろく大学院生が参加し研究会を開催する。 ウ．大学教員とともに実習記録、VTRをみて、問題点、課題を探索する。 エ．現任校において校長、同僚教員を交えてプランニングについて研究会を開催する。 オ．実施状況の参観、支援を行う。 カ．現任校、大学において実施成果の報告会を開催する。</p>	佐藤洋一 志水廣 吉田淳 船尾日出志 宮川秀俊 中妻雅彦 蜂須賀渉 川北稔 神谷孝男 藤井啓之 志賀廣夫 中越敏文 木村隆夫 添田久美子 恒川武久 山田久義
社会体験実習科目	多様なフィールド実習 Practice for Diverse Field	<p>学校現場以外の社会教育機関、病院、福祉施設、企業、NPOなどにおいて、(現職学生にあつては教師の立場を離れて)OJT オン・ザ・ジョブ・トレーニング さらには、PBL プランニング・ベースド・ラーニング を経験することで、視野を広げ、企画力、計画力を高め、多様で柔軟な人間関係のとり方を学ぶとともに、学校で生かせる経験・人的ネットワークを獲得する。さらに現職学生にあつては学校と地域との連携、地域貢献の在り方をも考える。</p> <p>指導方法 ア．興味・関心、これまでの経験をもとにフィールドの情報を入手させる。 イ．フィールド候補を訪問させる。 ウ．大学教員の実習フィールド訪問指導。 エ．実習体験の報告会を開催する。</p>	志水 廣 川北 稔 木村隆夫